

## 【夏の自然観察会】

### 立会川・宇筒井川(古座川町)

日 時：2024年8月3日(土)・4日(日)

調査地：立会川および宇筒井川(いずれも古座川支流)

宿 舎：あらふねリゾート(串本町下里)

昨年以上の猛暑が続く中、今年(2024年)の夏の観察会を開催しました。3日は21名、4日は29名が参加しました。

初日は、一枚岩の道の駅に集合後、乗り合わせて移動、一枚岩の裏側付近になると思われる岩山の間を流れる立会川に沿って観察を行いました。歩き始めて早速話題になったのがアブラギリについて。今回観察できたのはシナアブラギリ(外来種)でしたが、アブラギリ(在来種)との見分け方として、蜜腺の形態が重要(シナアブラギリは平面的でアブラギリは柄がある)とのこと。どちらも油を採取するために栽培も行われているが、私の印象としては、シナアブラギリの方が分布を拡げている様に思います。立会川には、上流に人家や作業場があるものの、途中の岩場には、セッコクやキイジョウロウホトトギス、ギボウシ類、イワタバコなどが、道路沿いには、ヤナギイチゴやゴマギ、イワナンテン、ガンピ、キノクニスズカケなども見られました。

二日目は、滝ノ拝の北西にある廃村あとの道路を筒井川沿いに遡りながら観察しましたが、歩き始めてすぐ、センチコガネとオオセンチコガネが群れているところに出くわし、的場氏などから、両種に見分け方などのレクチャーを受けました。また、道沿いの枯れ葉の下からタカチホヘビが見つかり、しばし撮影会となりました。この地域では天然記念物として地域指定されているルーミスジジミを乾風氏が捕獲し、運良く見ることができました(採集禁止なので、観察後は放蝶)。森としては、植林と二次林のやや乾燥気味の混合林ですが、比較的良好に保たれており、イヌシダやジュウモンジシダ、ホラシノブ、オオバシシラン、ハチジョウシダなどのシダ類のほかコクランの群生も確認できました。また、コケ類では、比較的珍しいコモチイチイゴケが採取できたと土永氏から紹介いただきました。

猛暑の中での観察会でしたが、体調を崩す方もなく、皆さんのおかげで楽しい2日間となりました。



参加者の皆さん(上)と観察の様子(下)



観察できた植物



ヒナノシャクジョウ



セッコク



ゴマギ



キノクニスズカケ



ヨウラクヒバ



キイジョウロウホトトギスの群落